

令和元年度

岩見沢市教育行政点検評価報告書

岩見沢市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、令和元年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を実施しましたので、その結果について報告いたします。

令和2年10月27日

岩見沢市教育委員会

目 次

第1章 岩見沢市教育行政点検評価について

| | | |
|---|-------------|---|
| 1 | 点検評価の目的 | 1 |
| 2 | 点検評価の概要 | 1 |
| 3 | 学識経験者の知見の活用 | 1 |

第2章 教育委員会の会議開催状況

| | | |
|---|----------|---|
| 1 | 教育委員会の会議 | 2 |
| 2 | 会議の実施状況 | 2 |

第3章 各事業の点検評価

| | | |
|---|--------------|----|
| 1 | 事業一覧 | 8 |
| 2 | 各事業の点検評価表 | |
| | 学校教育の推進 | 9 |
| | 社会教育の推進 | 25 |
| | 子ども・子育て支援の推進 | 32 |

第4章 学識経験を有する方からの改善に向けたご意見

| | | |
|--|--------------|----|
| | 学校教育の推進 | 40 |
| | 社会教育の推進 | 41 |
| | 子ども・子育て支援の推進 | 41 |

資 料

| | | |
|--|-------------|----|
| | 令和元年度教育行政方針 | 42 |
|--|-------------|----|

第1章 岩見沢市教育行政点検評価について

1 点検評価の目的

この点検評価は、教育委員会が自らの権限に属する事務を点検・評価し、その結果に関する報告書を議会に提出・公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくという目的で実施しています。

2 点検評価の概要

対象年度は、教育委員会において令和元年度に実施した事務事業としています。

点検・評価を行う各対象事業については、教育行政方針に沿った施策を推進する上で、重点となる事業を選定いたしました。

点検評価の実施にあたっては、各事業における前年度までの課題を踏まえ「令和元年度の達成目標」を定め、「令和元年度の実施状況」について、評価・反省点を整理した上で、「今後の課題・取組の方向性」について検証し、今後の改善に向けた方針を明らかにするとともに、以後の事業運営に反映させることとしました。

なお、令和元年度の教育行政方針については、報告書の後段に掲載いたしました。

3 学識経験者の知見の活用

点検評価を行うにあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定により、教育に関して学識経験を有する方の知見を活用することとされています。

このことから教育委員会では、下記の5名の方を岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員に委嘱し、5回の会議を通じて各事業の点検評価内容の説明を行うとともに、各委員から具体的な意見等を頂きながら点検評価を進めました。

なお、検討委員から頂いた改善に向けた意見の主なものについては、報告書の後段に掲載いたしました。

○岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員

- ・山本理人：北海道教育大学教授
- ・金田貴彦：岩見沢市PTA連合会会長
- ・室永雅人：岩見沢市PTA連合会副会長
- ・岡嘉彦：岩見沢市社会教育委員（議長）
- ・西下摩利子：岩見沢市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会 部会長

第2章 教育委員会の会議開催状況

1 教育委員会の会議

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置された合議制の執行機関です。

岩見沢市の教育委員会は、教育長を代表として、4人の教育委員により組織されており、その権限に属する事務を処理させるために事務局を設置し、学校教育や社会教育等に関する事務を一体的に行っています。

教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関して深い識見を持つ人の中から、市長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年です。

教育委員会の会議には定例会と臨時会があり、定例会は原則として毎月第3水曜日、臨時会は必要に応じて開かれます。会議では、教育行政のあり方、教育関係の各種審議会等の委員の委嘱、各種規則等の制定などが話し合われます。

- | | | |
|----------|-------|-----|
| (1) 開催回数 | ・定例会 | 12回 |
| | ・臨時会 | 8回 |
| (2) 審議事項 | ・議決案件 | 61件 |
| | ・報告案件 | 19件 |
| | ・協議案件 | 11件 |

2 会議の実施状況

| 開催日 | 付議案件 |
|------------|--|
| 平成31年4月19日 | <p>〔議案〕</p> <p>第22号 岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</p> <p>第23号 岩見沢市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について</p> <p>第24号 岩見沢市立教育研究所運営委員会委員の委嘱について</p> <p>第25号 岩見沢市立高等学校学則等の一部改正について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第5号 教育長の一般経過報告について</p> <p>第6号 平成31年岩見沢市議会第1回定例会について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議5 岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員の選出方法について</p> <p>協議6 岩見沢市立学校通学区域審議会委員の選出方法について</p> <p>協議7 岩見沢市教科用図書調査委員会委員の選出方法について</p> |

| 開催日 | 付議案件 |
|-------------------|---|
| 令和元年5月16日 | <p>〔議案〕</p> <p>第26号 岩見沢市教育委員会会議規則の一部改正について</p> <p>第27号 岩見沢市教育行政点検評価にかかる検討委員の委嘱について</p> <p>第28号 岩見沢市立学校通学区域審議会委員の委嘱について</p> <p>第29号 岩見沢市立学校通学区域審議会に対する諮問について</p> <p>第30号 岩見沢市教科用図書調査委員会委員の委嘱について</p> <p>第31号 岩見沢市教科用図書調査委員会に対する諮問について</p> <p>第32号 岩見沢市学校給食運営委員会委員の委嘱について</p> <p>第33号 岩見沢市社会教育委員の委嘱について</p> <p>第34号 岩見沢市社会教育委員の会議に対する諮問について</p> <p>第35号 令和元年度教育委員会関係補正予算について</p> <p>第36号 岩見沢市立図書館協議会委員の委嘱について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第7号 教育長の一般経過報告について</p> |
| 令和元年6月7日 (臨時会) | <p>〔議案〕</p> <p>第37号 岩見沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について</p> |
| 令和元年6月19日 | <p>〔議案〕</p> <p>第38号 岩見沢市就園特例奨励金支給規則の廃止について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第8号 教育長の一般経過報告について</p> |
| 令和元年7月17日 | <p>〔議案〕</p> <p>第39号 岩見沢スポーツセンター条例施行規則等の一部を改正する規則の一部改正について</p> <p>第40号 岩見沢市文化センター条例施行規則及び岩見沢市生涯学習センター条例施行規則の一部を改正する規則の一部改正について</p> <p>第41号 岩見沢市立高等学校学則の一部改正について</p> <p>第42号 岩見沢市教科用図書の採択について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第9号 教育長の一般経過報告について</p> <p>第10号 令和元年岩見沢市議会第2回定例会について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議8 岩見沢市文化財保護委員会委員の選出方法について</p> <p>協議9 岩見沢市民会館運営委員会委員の選出方法について</p> |

| 開催日 | 付議案件 |
|---------------------|---|
| 令和元年7月30日 (臨時会) | 〔議案〕 第43号 岩見沢市教科用図書採択について |
| 令和元年8月6日 | 〔議案〕 第44号 令和元年度教育委員会関係補正予算について 第45号 平成30年度岩見沢市教育行政点検評価報告書の提出について 第46号 岩見沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 第47号 岩見沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について 〔報告〕 第11号 教育長の一般経過報告について 〔協議〕 協議10 平成31年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について |
| 令和元年9月18日 | 〔議案〕 第48号 令和元年度岩見沢市教育振興表彰について 第49号 岩見沢市文化財保護委員会委員の委嘱について 第50号 岩見沢市民会館運営委員会委員の委嘱について 第51号 岩見沢市立ふれあい子どもセンター条例施行規則等の一部改正について 第52号 岩見沢市子ども・子育て支援法の支給認定に関する規則の一部改正について 第53号 岩見沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確認に関する要綱の一部改正について 第54号 岩見沢市一時預かり事業(幼稚園型)実施要綱の一部改正について 第55号 施設等利用費の支給に関する要綱の設定について 第56号 岩見沢市立高等学校学則の一部改正について 〔報告〕 第12号 教育長の一般経過報告について |
| 令和元年10月15日 (臨時会) | 〔議案〕 第57号 岩見沢市立学校教頭人事について |
| 令和元年10月16日 | 〔報告〕 第13号 教育長の一般経過報告について 第14号 令和元年岩見沢市議会第3回定例会について |

| 開催日 | 付議案件 |
|--------------------------|--|
| 令和元年 11 月 20 日 | <p>〔議案〕</p> <p>第 58 号 令和元年度教育委員会関係補正予算について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第 15 号 教育長の一般経過報告について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議 11 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について</p> |
| 令和元年 11 月 21 日 (臨時会) | <p>〔報告〕</p> <p>第 16 号 教育長職務代理者の指名について</p> |
| 令和元年 12 月 18 日 | <p>〔議案〕</p> <p>第 59 号 岩見沢市立高等学校職員の昇給及び勤勉手当に係る取扱要綱の一部改正について</p> <p>第 60 号 特定職員である岩見沢市立高等学校職員の昇給に係る取扱要綱の設定について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第 17 号 教育長の一般経過報告について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議 12 令和 2 年度教育委員会関係予算見積り状況について</p> |
| 令和 2 年 1 月 15 日 | <p>〔議案〕</p> <p>第 1 号 議決の変更について(岩見沢市栗沢文化センターの指定管理者の指定について)</p> <p>第 2 号 岩見沢市立高等学校職員の昇給及び勤勉手当に係る取扱要綱の一部改正について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第 1 号 教育長の一般経過報告について</p> <p>第 2 号 令和元年岩見沢市議会第 4 回定例会について</p> <p>第 3 号 岩見沢市立学校通学区域審議会の答申について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議 1 岩見沢市社会教育委員の選出方法について</p> <p>協議 2 岩見沢市スポーツ推進委員の選出方法について</p> |
| 令和 2 年 1 月 30 日 (臨時会) | <p>〔議案〕</p> <p>第 3 号 岩見沢市教育委員会の人事について</p> |

| 開催日 | 付議案件 |
|--------------------|---|
| 令和2年2月19日 | <p>〔議案〕</p> <p>第4号 令和2年度教育委員会関係予算について</p> <p>第5号 令和元年度教育委員会関係補正予算について</p> <p>第6号 令和2年度教育行政方針の設定について</p> <p>第7号 岩見沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について</p> <p>第8号 岩見沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について</p> <p>第9号 岩見沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第4号 教育長の一般経過報告について</p> <p>〔協議〕</p> <p>協議3 岩見沢市立小・中学校適正配置計画の策定について</p> |
| 令和2年2月28日 (臨時会) | <p>〔議案〕</p> <p>第10号 令和2年度教育行政方針の一部変更について</p> |
| 令和2年3月5日 (臨時会) | <p>〔議案〕</p> <p>第11号 岩見沢市立学校長人事について</p> <p>第12号 岩見沢市立学校教頭人事について</p> <p>第13号 岩見沢市立学校一般教職員人事について</p> <p>〔報告〕</p> <p>第5号 新型コロナウイルス感染症対応状況について</p> |
| 令和2年3月27日 | <p>〔議案〕</p> <p>第14号 岩見沢市立学校管理規則の一部改正について</p> <p>第15号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備に関する規則の設定について</p> <p>第16号 岩見沢市立教育研究所設置条例施行規則の一部改正について</p> <p>第17号 岩見沢市立高等学校職員の人事評価に関する要綱の一部改正について</p> <p>第18号 第2期岩見沢市社会教育中期計画の策定について</p> <p>第19号 岩見沢市社会教育委員の委嘱について</p> <p>第20号 岩見沢市スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>第21号 岩見沢私立幼稚園就園奨励費交付金に関する規則の廃止について</p> |

| 開催日 | 付議案件 |
|--------------------------|---------------------------------|
| | 〔報告〕 第 6 号 教育長の一般経過報告について |
| 令和 2 年 3 月 30 日 (臨時会) | 〔議案〕 第 22 号 岩見沢市教育委員会の人事について |

第3章 各事業の点検評価

1 事業一覧

| 施策番号 | 教育行政方針の重点施策名 | 重点施策に関連する事務事業名 | 担当課 | 頁番号 |
|-----------------------|------------------------|---|-------------------|-----|
| A 学校教育の推進 | | | | |
| 1 | 新しい時代に対応できる力の育成 | 1) 教育指導振興事業※ 2) 子どもがかがやく学校活動支援事業※ 3) 学力向上対策事業 | 指導室 指導室 指導室 | 9 |
| 2 | 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進 | 4) 教育情報システム化推進事業 | 学校教育課 | 11 |
| | | 5) 教育指導振興事業※ | 指導室 | 12 |
| 3 | 育ちと学びを支える教育環境の充実 | 6) 教育委員会事務局管理事業 | 学校教育課 | 14 |
| | | 7) 小・中学校管理事業 | 学校教育課 | 15 |
| | | 8) 教育支援センター事業 | 指導室 | 16 |
| | | 9) 特別支援教育推進事業 | 指導室 | 18 |
| | | 10) 教育研究所運営事業 | 指導室 | |
| | | 11) 外国語指導助手活用事業 | 指導室 | 20 |
| 12) 小・中学校校舎等管理事業 | 教育施設課 | | | |
| 4 | 信頼と期待に応える開かれた学校づくり | 13) 東小学校校舎改修事業 | 教育施設課 | 21 |
| | | 14) 教育指導振興事業※ | 指導室 | |
| 5 | 緑陵高等学校の教育の充実 | 15) 子どもがかがやく学校活動支援事業※ | 指導室 | 22 |
| | | 16) 学校管理事業 | 緑陵高等学校 | |
| 6 | 学校給食の充実 | 17) 学校給食共同調理所運営事業 | 学校給食課 | 24 |
| B 社会教育の推進 | | | | |
| 1 | 生涯学習の充実 | 18) 市民の学び支援事業 | 生涯学習・文化・スポーツ振興課 | 25 |
| 2 | 芸術・文化活動の推進 | 19) 文化のまちづくり事業 | 生涯学習・文化・スポーツ振興課 | 27 |
| | | 20) 地域文化振興事業 | 生涯学習・文化・スポーツ振興課 | |
| | | 21) 郷土科学館管理運営事業 | 生涯学習・文化・スポーツ振興課 | |
| 3 | スポーツ活動の推進 | 22) 健康・スポーツ振興事業 | 生涯学習・文化・スポーツ振興課 | 28 |
| | | 23) オリンピック・パラリンピック推進事業 | 生涯学習・文化・スポーツ振興課 | |
| | | 24) スポーツ施設管理運営事業 | 教育施設課 | 30 |
| 4 | 図書館運営の充実 | 25) 図書館活動運営事業 | 図書館 | 31 |
| | | 26) ブックスタート事業 | 図書館 | |
| C 子ども・子育て支援の推進 | | | | |
| 1 | 子ども・子育て支援の充実 | 27) 子ども・子育て支援事業 | 子ども課 | 32 |
| | | 28) あそびの広場運営事業 | 子ども課 | |
| | | 29) 栗沢認定こども園運営事業 | 子ども課 | 34 |
| | | 30) 保育所入所運営事業 | 子ども課 | |
| 2 | 子育て相談体制の充実 | 31) 病児・病後児保育運営事業 | 子ども課 | 36 |
| | | 32) 子育て総合支援センター事業 | 子ども課 | |
| 3 | 放課後活動の充実 | 33) 留守家庭児童対策事業 | 子ども課 | 37 |
| 4 | 青少年健全育成の充実 | 34) 青少年対策事業 | 子ども課 | 38 |
| | | 35) 青少年育成事業 | 子ども課 | |

※複数の施策に関連する事業

2 各事業の点検評価表

次頁以降のとおり

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|---|-------------|
| 施策番号 | A-1 | 担当課 【 指導室 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 新しい時代に対応できる力の育成 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 1) 教育指導振興事業 2) 子どもがかがやく学校活動支援事業 3) 学力向上対策事業 | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 未来を生き抜くために必要な資質・能力の育成を図るため、日常授業の改善を中核とした学校改善に取り組み「子どもが主人公になる岩見沢の教育づくり」を展開する。 ・ 学校と地域が連携・協働した教育活動を推進するため、学校の創意工夫による教育活動やボランティアと連携した活動、コミュニティ・スクールの導入などを支援する。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査正答率～80% ・ 標準学力検査～すべての学校が全国平均以上 ・ 日常授業の改善の徹底～「教えて考えさせる」授業スタイルとピア・サポート ・ 学力向上策や豊かな体験活動の推進など、学校が企画する魅力ある教育活動への支援 ・ 学習塾との連携による土曜学習会等の学力向上事業の推進 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 組織的な学校改善の中核として「日常授業の改善」を位置づけ、児童生徒が身につけた知識・技能を活用し、思考・判断・表現しながら課題解決に向けて学習する「教えて考えさせる」授業スタイルと「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の学校風土づくりを推進した。 | 「日常授業の改善」は着実に前進してきている。全国学テの市全体の平均正答率では、小学校算数以外で全国平均を上回った。 |
| 教育委員会では、市全体の全国学力・学習状況調査の結果を数値で公表した。各学校は、標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果を保護者・地域に数値で公表した。 | 結果を受け、分析して明確になった傾向に対する改善方策を確実に実施し、次年度の成果につなげることが重要である。 |
| 各学校の創意工夫を活かした教育活動に対して補助金を配分し、取組を支援した。 ・ 児童生徒の学びに向かう力を高める取組 ・ 教師の指導力向上のための取組 ・ 地域人材をボランティアとして活用した取組等 | 魅力ある事業に重点的に配分したが、各学校の企画立案内容の格差が大きくなってきている。 |
| ・ 光陵中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして教育活動その他の学校運営を推進した。 ・ 学校運営協議会を年間4回開催し、校長の学校経営方針の承認、様々な学校情報の共有、連携・協働による教育活動や学校運営の推進に取り組むとともに、学校を地域資源と捉え、どのように地域に還元できるかという視点にたった運営を目指した。 | 光陵中学校の取組の成果と課題を検証し、2中学校区、3小学校にコミュニティ・スクール導入の拡大を図った。 |
| 学力向上に係る各種事業を推進した。 ・ 学習塾との連携による土曜学習「Sスタディ」の実施 ・ A L Tを活用した「土曜キッズ英会話」の実施 ・ 英語3級の取得を目指す「英検学習会」の実施 ・ 囲碁授業の実施 | 「Sスタディ」「英検学習会」については参加者増に向けた取組の工夫が必要である。 |

今後の課題・取組みの方向性

- 「教えて考えさせる」授業スタイルの組織的な展開により、児童生徒が思考・判断し表現する活動時間を位置づけた「日常授業の改善」を徹底し、学力の向上を図る。
- 各校のマネジメントサイクルの徹底を図り、標準学力検査（全国学力・学習状況調査）における数値目標を確実に達成する。
- 小中接続、地域との連携・協働の強化により、中学校区における学校運営協議会を設置し、学校と地域の力で児童生徒にこれからの時代に対応できる資質・能力を身に付けさせる。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|-------------------------------------|----------------------|
| 施策番号 | A-2 | 担当課 【 学校教育課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 4) 教育情報システム化推進事業 (教育情報化推進環境整備事業) | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|--|--|
| <p>進展を続ける高度情報通信ネットワーク社会に適応できる人材の育成を図るとともに、多様で高度な市民ニーズに応えるため、ICT（情報通信技術）を活用した効果的な授業の展開を進めるとともに、ICT環境の充実・維持及び情報活用能力の向上を図るなど、教育の情報化を推進する。また、ホームページや広報紙等を活用した教育情報の効果的な提供により市民サービスの向上を図る。</p> | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した授業及び学習を促進するため、ネットワークを利用した動画教材の活用環境を整備するなど、教育用コンテンツの充実を図る。 ・ 学習ソフトや授業支援ソフトなど授業で活用するソフトの基本的な研修をはじめ、教職員のネットワークにおける情報管理能力・危機管理能力向上のための研修を実施する。 ・ テレビ会議を活用した双方向遠隔学習を推進するなど、ICTを活用した特色ある教育方法の展開を図る。 ・ 教育委員会ホームページの適時更新及び内容充実を図るとともに、教育広報を年4回発行するなど、教育情報の積極的かつ細やかな提供を図る。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>動画教材「EDUMALL」を活用し、各校の要望に応じてデジタル教科書及びそれに準拠する教材等を配信し、授業に活用されたが、これまでの課題である各校での活用頻度のばらつきについて解消には至らなかった。</p> | <p>令和2年度中に整備予定の児童生徒1人1台タブレット端末の有効活用や視認性の高い大型モニターへの計画的な更新が必要。</p> |
| <p>授業支援ソフトの活用に係る研修をPC入替校で実施したほか、一般教員を対象とした情報セキュリティ研修を実施した。 (H30以降情報セキュリティ研修累計参加者189名)</p> | <p>情報セキュリティについて、徐々に教職員に浸透してきている。教職員の人事異動もあることから、研修の継続が必要。</p> |
| <p>遠隔学習については、スタジオを用いた双方向学習2番組、テレビ会議システムを活用した3校以上同時接続の遠隔学習を2番組、計4番組を実施した。また、北村小学校とフィリピンの小学校との遠隔交流授業にテレビ会議システムを活用した。</p> | <p>テレビ会議システムについて、これまでの遠隔学習のみの利用だけでなく、臨時休校時等のオンライン授業への活用の検討が必要。</p> |
| <p>教育広報「いわみざわの教育」を年4回発行し、教育委員会で実施している事業の情報提供を行ったほか、各種イベントや施設の運営に関する情報をSNSで発信した。</p> | <p>HPやSNSを活用した情報提供について、学校現場の負担の少ない統一された方法の検討が必要。</p> |
| 今後の課題・取組みの方向性 | |
| <p>GIGAスクール構想において令和2年度中に児童生徒1人1台タブレット端末を整備予定であり、指導室との連携によりEDUMALLや授業支援ソフトの活用を進めていくほか、教職員による効果的な指導と児童生徒の情報活用能力の向上を推進していく。臨時休校等の緊急時における学びの保障のため、オンライン授業や授業配信等に必要なハード及びソフトの環境整備を推進していく。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | | |
|-----------------|-----------------------------------|-----|---------|
| 施策番号 | A-2 | 担当課 | 【 指導室 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進 | | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 5) 教育指導振興事業 | | |

| 目的・概要 | |
|--|--|
| <p>児童生徒一人ひとりの自尊感情を高め、自己指導能力の育成を図る積極的な生徒指導を推進するとともに、命を大切に作る心や他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心、モラルを育てる教育を充実し、豊かな人間性を育む。</p> | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自尊感情、自己肯定感の高揚を図る。 ・特別の教科道德の授業の充実を図る。 ・「家読」「朝読」の取組みを進め、豊かな感性や想像力を育む読書活動の充実を図る。 ・1校1実践の体力づくりの取組みを進め、体力向上や運動の習慣化を図る。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 市内全校でピア・サポートプログラムを導入し、児童生徒の「傾聴・受容・共感」の態度を育み、自尊感情や自己肯定感の高揚と人間関係能力の育成を図った。 | 指導室指導員を学校に派遣したピア・サポート研修の推進により、各学校の実践を支援できた。また、市内教員による研修グループを起ち上げ、活動をスタートさせた。 |
| 道教委指定「道德教育推進校事業」（美園小・光陵中）や市教育研究所指定事業、道外から講師を招聘し師範授業や授業研究を推進するなど、道德の授業改善、指導内容の充実に向けた取組みを展開した。 | 教員の道德の授業に対する意識転換が大きく進み、道德の授業力向上に向けた積極的な取組みが実施されるようになってきた。 |
| 全小中学校3学年分の「hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）」の予算化と実施により、よりよい学級集団づくりと児童生徒への指導に活かす取組みを推進することができた。 | 教育支援センターによるhyper-QU活用研修と学校支援により、各学校の理解と活用が進んだ。 |
| 全国体力・運動能力、運動習慣等調査、新体力テストの実施と分析に基づく体力や運動習慣等の実態把握と、体力向上策を推進した。また、体力向上に向けた改善策を含めた詳細な報告書を作成し、教委HPで公表した。 | 特に中学生の体力が男子女子ともに全国平均を大きく下回っており、体力向上に向けた実効性ある取組みが急務である。 |
| 学校教育指導による体育、保健体育の授業への指導・助言や体育専科教員加配事業の成果の普及などにより、特に小学校で体力向上に向けた授業改善に成果があった。 | 体育の授業だけではなく、生活全般を通した体力向上の取組みが必要である。 |

今後の課題・取組みの方向性

- 「考え議論する道徳」への授業改善を確実に図るための研修の充実を図る。また、教育研究所における「部会・指定校連動研究システム」の推進を図る。
- 読み聞かせボランティアとの連携による本に親しみ読書の魅力を高める取組みや「朝読書」などの読書活動の継続実施を徹底する。
- 体力向上に向けた取組みの徹底とともに、全国体力・運動能力、運動習慣等調査方法の改善や事前指導の充実を図る。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|----------------------------------|----------------------|
| 施策番号 | A-3 | 担当課 【 学校教育課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 6) 教育委員会事務局管理事業 (通学区域審議会運営事業) | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|---|---|
| <p>岩見沢市立学校通学区域審議会条例に基づき、教育委員会からの諮問に応じて審議会を開催し、学校の適正配置及び適正規模について検討するとともに、通学区域の見直しを図る。</p> | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <p>平成31年3月に策定した岩見沢市立小・中学校の適正配置に関する基本計画に基づき、将来の児童生徒数の推計や地域の実情を考慮しながら、新たな市内小中学校の適正配置計画を策定する。</p> | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>通学区域審議会を計画的に運営し、審議会からの答申に基づき令和2年2月に適正配置計画（案）をまとめ、地域説明会の準備をするが、新型コロナウイルスの影響により説明会が未開催であることから、年度内の計画策定には至らなかった。</p> | <p>審議会の運営、適正配置計画（案）の作成までは予定どおり実施できた。地域説明会の開催は、次年度になるが早期開催に向け準備を進める。</p> |
| <p>基本計画において、「学校選択制度の問題点の調査・分析を行い、制度の継続や改善の必要性等について検討する」としており、令和2年2月に小・中学校の保護者等を対象にアンケート調査を実施した。</p> | <p>制度の今後の方向性を検討する資料として実施することができた。</p> |
| | |
| | |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <p>新たな適正配置の前期計画において、北村・栗沢地域の小中一貫教育の導入を進めるとしており、そのため市立教育研究所内に準備室を設置し、導入に伴う教育課程の編成、組織の体制、教育環境の整備等について、具体的な検討を行っていきます。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|----------------------------------|----------------------|
| 施策番号 | A-3 | 担当課 【 学校教育課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 7) 小・中学校管理事業 (学校における働き方改革の推進) | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|--|--|
| <p>教員の働き方改革を進めることで、教員の業務の質を高めると共に、日々の生活や教員人生を豊かにすることで、教員自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行い、教育の質の向上を図る。</p> | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <p>岩見沢市立学校における働き方改革行動計画に基づき、教職員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備や部活動に係る負担の軽減、勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実、学校に対するサポート体制の充実などについて取組みを進める。</p> | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>文部科学省が策定した「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」に基づき、勤務時間の上限に関する内容を含めた行動計画の見直しを行った。</p> | <p>国のガイドラインに基づく道方針の改正に合わせ、遅滞なく当市の計画見直しを行うことができた。</p> |
| <p>学校職員が休養を取りやすい環境を整備し、心身の健康を保持するため、長期休業期間中における「学校閉庁日」を次のとおり実施した。 (夏季休業期間 8月15日前後の3日間) (冬季休業期間 12月29日から1月3日までの6日間)</p> | <p>予定どおり実施できたが、閉庁日に出勤している教員も少なからずいるため、より休暇を取りやすい環境づくりに取り組む必要がある。</p> |
| <p>部活動の適切な運営のための体制整備として、各学校において部活動に係る活動方針と年間の活動計画を策定した。</p> | <p>国のガイドラインに基づく道方針の改正に合わせ、遅滞なく当市の計画見直しを行うことができた。</p> |
| <p>学校職員のメンタルヘルス対策を推進するため、教職員のメンタルヘルスチェックを実施した。 (各学校において12月2日から12月15日の期間で実施) (実施率：62.60%)</p> | <p>予定どおり実施できたが、教職員の心身の健康増進のため、実施メリットの周知など、実施率の向上に取り組んでいく必要がある。</p> |
| <p>教職員の日常的な業務全般の効率化や負担軽減、教育の質の向上等に資するため、教職員を含めた検討グループを構成し、統合型校務支援システム導入の検討を行った。</p> | <p>予定どおり実施し、令和2年度に導入することが決定した。今後は、学校現場との調整を図りながら、円滑に導入できるよう取組みを行う。</p> |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <p>より実効性のある取組みとして、校務支援及び出退勤システムの導入・運用のほか、学校における事務負担の軽減や部活動の外部人材活用の導入検討を行うとともに、行動計画の達成状況の検証や次年度以降の行動計画について検証を進める。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|-----------------------------|--------------------|
| 施策番号 | A-3 | 担当課 【 指導室 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 8) 教育支援センター事業 | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|--|--|
| <p>幼児、児童、生徒、保護者、学校等に必要な教育的支援を行い、子どもの人格の健全な成長を支援する。そのため、教育支援コーディネーターを相談窓口、他機関とのパイプ役として配置し、必要に応じて、教育相談の専門家スタッフや登校支援室職員が支援を行う。</p> | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介リーフレットを小・中学校全家庭に配付するなど教育支援センターの周知に努める。 ・ 関係機関との連携を図り、悩み等の早期解決を図る。 ・ 専門家スタッフの積極的な学校訪問により、専門的見地からの実態把握と学校と連携を図った支援を実施する。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>教育支援コーディネーターを窓口として、スクールソーシャルワーカー、医師、心理の専門家（SCスーパーバイザー）が教育相談を行い、必要に応じて関係機関と連携を図り、相談者の悩み等の早期解決を図ることができた。</p> | <p>延べ相談件数 H27 424件 H28 831件 H29 1,241件 H30 2,026件 R1 2,113件 件数増加への対応が急務。</p> |
| <p>教育支援センタースタッフが学校訪問を行い、医療・心理の専門的な見地からの実態把握を行い、支援が必要な児童生徒に対する早期対応を図ることができた。</p> | <p>教職員との連携体制が確実に進んだ、学校からの積極的な訪問要請が増加した。</p> |
| <p>特別支援教育専門員1名、スクールソーシャルワーカー2名の体制を維持し、相談件数の増加に適切に対応した。</p> | <p>相談件数の増加により、他の関係機関との連携を強化し、より迅速で機動的な対応が必要。</p> |
| <p>登校支援については、緑が丘ルーム（集団指導中心）、有明ルーム（個別指導中心）を活用し、学習支援に加えて体験的な活動も重視しながら個に応じた登校支援を行い、早期の学校復帰を目指した。</p> | <p>R1は、40人に登校支援を行い10人が学校復帰を果たすことができた。 (H30は、32人中9人復帰)</p> |
| <p>「hyper-QU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）」の分析結果を学校にフィードバックし、よりよい学級集団づくりといじめ・不登校等の未然防止に資することができた。</p> | <p>専門家スタッフがhyper-QU活用の校内研修講師として教員研修を実施し、教育活動の改善に大きく貢献した。</p> |

今後の課題・取組みの方向性

今後も積極的な学校訪問を実施し、支援が必要な児童生徒の早期発見に取り組み、発達障害や家庭問題等を要因とする課題の解決に向けて活動していく。登校支援室へ通級する児童生徒に対しては、未来志向で支援し、学校だけではなく社会とのつながりを重視した支援を行っていく。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|---|--------------------|
| 施策番号 | A-3 | 担当課 【 指導室 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 9) 特別支援教育推進事業 10) 教育研究所運営事業 11) 外国語指導助手活用事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・心身に障がいを持つ児童生徒及び特別な教育的支援を必要とする児童生徒の自立と社会参加に向けた教育的ニーズを把握し、適切な就学支援及び必要な支援を行う。 ・岩見沢市の教育の充実のため、教育課題の解明に向けた調査・研究事業などを推進する拠点として教育研究所を運営する。 ・「英語を使える岩見沢市の児童生徒」の育成を目指す。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じて適切な支援を行い、一人一人の児童生徒の健全な発達を促す。 ・各種の研修講座や研究授業などを通して、教職員の実践的指導力の向上を図る。 ・学校での授業だけではなく、子どもたちが外国の人とコミュニケーションを図る楽しさを体験することで、「英語を使える岩見沢市の児童生徒」の育成を目指す。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 特別支援教育推進委員会、専門家チーム会議を開催するとともに巡回相談を実施し、特別支援学級はもとより、通常の学級における特別支援教育の充実に努めた。 | 特別支援教育のねらいや合理的配慮への理解が不十分な対応が散見され、改善に向けた指導を要する。 |
| 特別支援学級及び通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒に対する支援のため、特別支援教育支援員を配置（令和元年度25名）するとともに、効果的な支援を実施するための研修会を実施した。 | 地方交付税算定基準である1校に1名の支援員配置となっているが、より多くの支援員の配置が必要な状況である。 |
| 幼児ことばの教室において、言語聴覚士を含む3名の指導員による新規の相談者に対する教育相談、通級する幼児への指導・観察を実施した。 | 幼児ことばの教室と保健センター・子育て支援センター・子ども発達支援センターつみき園の効果的な連携に課題がある。 |
| 教育研究所の部会研究事業（第1部会から第4部会まで）と指定校が連動しての調査研究、遠隔学習をはじめとする情報教育事業、Web教材の作成、教育大学との連携事業等に取り組み、成果をあげた。 | これまで以上に岩見沢の教育の成果に直結する事業を推進するため、運営の改善を図っていく必要がある。 |
| 9名の外国語指導助手を市内の各小・中学校及び緑陵高等学校に配置し、外国語科及び外国語活動における指導内容の向上に努めるとともに、小学校中学年・高学年を対象とした「土曜キッズ英会話」を実施した。また、中学生を対象とした「英検学習会」を開催した。 | 「土曜キッズ英会話」の事業充実を目指し、「英検学習会」での英検3級合格者増を目指す。 |

今後の課題・取組みの方向性

- ・特別支援教育の理解深化研修や専門家チームの在り方について検討し改善を図る。
- ・特別支援教育支援員の増員を目指し、適切な配置に努める。
- ・幼児ことばの教室が関係機関と適切に連携できる体制を整備していく。
- ・教育研究所の存在価値を高める事業展開を図る。
- ・「土曜キッズ英会話」「英検学習会」の取組みの充実を図る。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|--------------------------------------|----------------------|
| 施策番号 | A-3 | 担当課 【 教育施設課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 育ちと学びを支える教育環境の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 1 2) 小・中学校校舎等管理事業 1 3) 東小学校校舎改修事業 | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の施設の維持管理や計画的な設備の更新・整備等を行い、教育環境の充実を図る。 ・ 老朽化が著しい東小学校校舎の大規模改修工事を行う。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の施設整備の維持管理を行い、児童生徒の安全確保と教育環境の充実を図る。 ・ 東小学校校舎の大規模改修工事を行う。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 小中学校の校舎や屋内体育館における壁や床の破損、電気、機械及び給排水管設備等の故障や不具合については、安全性に関わるものを最優先に修繕を行なった。 | 予定どおり実施できた。 |
| 東小学校校舎の大規模改修工事を実施した。 | 予定どおり実施できた。 |
| | |
| | |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| 小中学校の施設設備の維持管理について安全に関わるものを優先に修繕を実施する。 | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|--|--------------------|
| 施策番号 | A-4 | 担当課 【 指導室 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 信頼と期待に応える開かれた学校づくり | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 1 4) 教育指導振興事業 1 5) 子どもがかがやく学校活動支援事業 | |

目的・概要

- ・学校評価により組織的な学校改善を図り、信頼される活力ある学校づくりに努める。
- ・地域人材の積極的な活用、地域と連携した教育活動の展開により、地域と連携・協働した開かれた学校づくりを推進する。

令和元年度の達成目標

- ・学校関係者評価により、各学校の教育活動その他の学校運営の改善を図る。
- ・各学校が創意工夫を活かして企画立案する特色ある教育活動を積極的に支援する。
- ・「学校・地域元気アップ支援事業」により地域人材をボランティアとして派遣し、学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を展開する。

| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
|--|---|
| 道のガイドラインによる緑陵高等学校、学校運営協議会を設置した光陵中学校の2校を除く、市内全22小・中学校において、学校評価推進委員会を中心に自己評価を行うとともに、うち9校を対象校として学校関係者評価を実施し、学校改善に資することができた。 | 学校評価が形骸化している実態も見られ、今後学校運営協議会へ評価機能が移行する際の取組みの改善を要する。 |
| 子どもがかがやく学校活動支援事業により、学力向上に向けた取組みや豊かな心を育む取組み、体力向上に向けた取組み等、各学校が創意工夫を活かして企画立案する特色ある教育活動を積極的に支援することができた。また、小中連携事業の増加、各学校における成果の発信が積極的に行われた。 | 事業の趣旨を活かした教育活動を積極展開する学校、小中連携による事業が増加してきた。ただし、学校間格差が大きいため、授業づくりに資する活動について積極的に支援していく。 |
| 学校支援ボランティアを広報、市教委ホームページ、町内会を通じて募り、学習支援、体力測定補助、環境整備活動、農業体験補助等、延べ12,267人が活動した。 (前年度13,825人 前々年度12,431人) | 各学校においてボランティアを有効活用した教育活動が継続的に行われている。 |
| | |

今後の課題・取組みの方向性

- ・今後、学校運営協議会への移行までは、各学校で行われる学校評価と学校関係者評価の一層の連動を進め、学校改善に資する取組みへと改善していく必要がある。
- ・学校活動支援事業の趣旨を活かした教育活動がより多くの学校で積極的に展開されるよう、授業づくりなど子どもたちに還元される活動を支援することを各学校に働きかけていくことが重要である。
- ・学校支援ボランティアの高齢化や需要と供給のズレといった課題の解消が急務である。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|-------------------------|----------------|
| 施策番号 | A-5 | 担当課 【 緑陵高等学校 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 緑陵高等学校の教育の推進 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 16) 学校管理事業 | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|---|---|
| 市立高校として、地域の良さを学び地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指すとともに、家庭や地域社会と連携して市民に開かれた魅力あふれる学校づくりを推進する。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考える生徒の育成 ・生徒の能力・適正に応じた進路の実現 ・教職員の専門性の向上と質の高い普通教育及び商業教育の提供 ・法令順守の徹底による円滑かつ適正な学校経営の推進 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 教職員の授業改善を目的に、他校視察研修や市内中学校公開授業に参加した。多くの先生方が他校視察するとともに、中学校の公開授業にも参加し、教科指導の向上に努めた。また、本校の公開授業にあわせて、中学校教諭対象授業見学説明会を実施した。校内研修では、来年度から運用を開始する校務支援システムについて、共通理解を図ることができた。 | 視察研修や公開授業では、中高のスムーズな学びの接続について考える良い機会となった。中学校教諭対象説明会では、初めての試みであったが本校の特色ある学科コースの学びや高校入試について、広く意見交換することができた。 |
| 生徒の多様な進路希望に対応するために、年度当初より計画的に進路ガイダンス等を実施して生徒の意識の高揚に努めた。進学希望者への対応として、長期休業中や放課後に講習を実施した。進路に応じた複数の模擬試験を校内実施し、その結果分析を行った。就職希望者へはインターンシップ・模擬面接や公務員講習などを実施した。その結果国公立大学・看護学校・専門学校へ149名が進学し、民間就職では希望者42名全員が内定し、公務員就職が16名であった。また、就職先事業所と就職者に対する連絡・問い合わせによる情報収集の実施、入社試験前の現場見学を徹底し、早期離職防止に努めた。 | 進学においては安全志向が顕著であった。来年度入試から実施される新しい大学入試に向けて、読解力・表現力を身につけるための講習の実施の他、視野・見聞を広め自らの適性を知るためのガイダンス・個人面談指導の充実がますます必要になる。就職においても堅実な進路選択で結果も良好であった。 |
| 教員による市内・管内中学校訪問の実施や清園中学校生徒に向けた本校教員による出前授業（数学・情報）を実施。また生徒会執行部の生徒による中学生への学校説明会や本校生徒による光陵中3年生への面接指導も行った。市内中学校の教員と本校の教職員との合同教育懇談会を開催した。 | 訪問、授業をした中学校からは評価いただいたので、訪問学校数を増やすこと、中3のみではなく、中1や小学生、保護者も対象にした活動をしていく。 |
| 授業公開や芸術週間、地域の行事やイベントへの支援と積極的な参加、ボランティア活動など積極的に取り組み、開かれた学校づくりを推進した。 | 概ね順調に進めた。 |
| 学校祭バザー、登下校指導、公開授業、PTA研修旅行、緑陵PTA懇談会等を実施してPTAの活性化に努めた。 | 概ね順調に進めた。 |

今後の課題・取組の方向性

- ・系統的なキャリア教育の実践により、生徒の社会人としての「生き方」を見据えた進路実現に努める。
- ・生徒・保護者の多様なニーズを踏まえ、深い思考を基盤とした学力の向上と主体性を養う特別活動・部活動の推進を図る。
- ・本校の教育実践を丁寧に説明するとともに、普通科の「総合的な探究活動」と情コミ科の「課題研究」を活かし、本校生徒の活動を地域に発信する。
- ・令和4年度からの新学習指導要領の実施に向けて、入試制度や学科の在り方など将来の緑陵高校の姿について検討していく。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|--------------------|----------------------|
| 施策番号 | A-6 | 担当課 【 学校給食課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 学校教育の推進 学校給食の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 17) 学校給食共同調理所運営事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ HACCPに基づいた衛生管理の徹底と、地元産の食材を積極的に活用し、安全・安心で子どもたちが健やかに成長できる学校給食に取り組む。 ・ 食に関する知識と望ましい食習慣を習得できるよう食育授業を充実させるとともに、試食会、施設見学等を通して給食に対する啓蒙活動を行う。 ・ 家庭や学校と連携し、子どもの命と健康を最優先とした食物アレルギーの対応を行う。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食調理における衛生管理を徹底するとともに、食材についても安全性を確保する。 ・ 食材に地場産物を積極的に取り入れ地産地消を推進する。 ・ 食育を充実させるとともに、嗜好の変化等を数値化し分析を行う。 ・ 専用調理室を活用し、鶏卵アレルギー除去食の安全な提供を行う。 ・ 給食費未納対策を強化し、保護者負担の公平性を確保する。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 従来からの野菜の残留農薬検査（年2回）に加え、17都県産野菜の放射能検査を実施した。 また、給食調理委託業者が「HACCPに基づく衛生管理導入評価事業」の申請を行い、岩見沢保健所からA評価を受けた。 | 食材から調理方法に至るまでの安全性について、客観的視点から確認することができた。 |
| 主食となる米や、パンと麺の小麦は全て岩見沢産を使用した。 また、野菜等についても収穫時期に合わせた献立を立案し、積極的に岩見沢産地場産物を使用した（タマネギ、キュウリ、ヤーコン、手造り味噌等）。 | 岩見沢産の地場産物を積極的に使用し、地産地消を推進することができた。 |
| 栄養教諭が各学校へ赴き、小・中学校合わせて22校、112学級（延べ125学級）で食に関する指導を実施した。 また、学校給食の推進を図るため、市民を対象とした施設見学（9回、199人）と定期試食会（4回、75人）を開催した。また、2月には児童・生徒・教職員への給食アンケートも実施した。 | 食に関する指導について、当初の予定回数は達成できたが、先方の都合により外部講師による出前講座が実施できなかった。 |
| 飲用牛乳及び乳入パンの代替食提供と並行し、児童9人・生徒2人に対し鶏卵アレルギー除去食を安全かつ安定的に提供した（年間延べ740食）。 | 副食としての鶏卵アレルギー除去食が安全かつ安定的に提供できた。 |
| 現年度給食費の未納者には、学校と連携し定期的に督促状を送付したほか、過年度分についても催告書送付、専門徴収員による戸別訪問・徴収のほか、12月には夜間訪問を実施した。 | 過年度分の滞納額は減少しているが、居所不明となるケースもあり、その対応に苦慮している。 |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理業務における衛生管理を徹底するとともに、引き続き安全・安心を基本とした学校給食の提供を行う。 ・ 地元食材による地産地消を進めるとともに、試食会や施設見学会等を通じて食育の充実と学校給食の啓蒙に努める。 ・ 安全性を最優先とした食物アレルギー対応食の提供とその拡充に努める。 ・ 給食費未納対策の強化し、保護者負担の公平性を確保する。 | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|--------------------|--------------------------------|
| 施策番号 | B-1 | 担当課 【 生涯学習・文化・スポーツ振興課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 社会教育の推進 生涯学習の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 1 8) 市民の学び支援事業 | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|---|--|
| <p>生涯学習センターを拠点として、「いわみざわチャレンジスクール」や「いわみざわ市民大学」の開催など、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に学習機会の充実を図るとともに、生涯学習の情報発信、相談体制の充実、指導者育成に努め、市民の学習活動への支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての世代に向けた学習の場の提供、情報発信・相談体制・指導者育成。 ・いわみざわ市民大学の開催とそれに伴う実行委員会等の設置・運営。 ・児童・生徒を対象に、学習活動や体験活動（いわみざわチャレンジ・スクール）を実施。 ・高齢者を対象とした社会参加意識の高揚を継続して進める。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <p>生涯学習センターを拠点に、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に学習機会の充実を図るとともに、学習情報や学習成果を生かせる場の提供に努め、市民の学習活動を支援する。</p> | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>○高齢者対象講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢ことぶき学園 （11回実施、受講者89人） ・栗沢長寿大学 （11回実施、受講者79人） ・北村寿大学 （11回実施、受講者37人） | <p>参加者の満足度は高い評価であった。社会参加の拡大、生きがい、仲間づくりの機会の場でもあり継続実施する。</p> |
| <p>○いわみざわ市民大学</p> <p>新規や若年層の市民の受講機会の促進を図るため、岩教大と連携した講義や企画講座委員の提案を取り入れ、「生命・健康」「まちづくり」「国際理解」「環境」4つの現代的課題を中心に講義内容の充実を図るなど、芸能やスポーツなど多様なテーマを基に実施した。 (12回実施、受講者56人)</p> | <p>受講後のアンケートにおいて、多くの受講生が満足である回答であった。また、平均出席率が過去最高の85%となった。しかし、受講者数の減少があるため講義内容を検討し今後も継続実施する。</p> |
| <p>○いわみざわチャレンジ・スクール</p> <p>子どもたちが、工作やスポーツ、陶芸、野外体験活動等を実施した。連携事業として教育大学岩見沢校の協力を得て今年度は7回事業を実施。プログラムについては、学生が持つ個性や特技、知識を生かしながら、子どもたちが気軽に取り組める内容を企画実施した。 (31回実施、参加者総数701人)</p> | <p>学校では体験できないプログラムや科学実験、モノづくりなどの体験活動を通して、子どもたちの休日をより有意義なものとする事ができた。子どもたちや保護者の評価も高く、継続実施する。</p> |
| <p>○みんなで教育を考える日</p> <p>今年度も昨年に引き続き「いわなび」を会場に各世代間の交流を目的に実施した。関連事業としては、学校給食展、少年の主張などを実施したほか、教育講演会においては、北海道教育大学岩見沢校の能條教授に「自然と災害、あなたにもできる減災教育」をテーマに、近年の地震や土砂災害の前兆などを岩見沢市の水害ハザードマップを基に紹介した。 (各会場来場者 述べ452人)</p> | <p>実行委員会が運営し「だれもが輝けるまち、いわみざわ」をテーマに行った。「いわなび」を会場に行い、各ブースでの事業紹介を展開した。来年度へ向けての反省点、課題等をふまえ今後も継続実施する。</p> |

今後の課題・取組の方向性

市民の学び支援事業では、生涯学習の提供として学ぶ機会・参加者同士の交流など、講義内容を検討し充実を図り、勤労者層の取り込みや新規・若年層の受講機会をより促進するため努力する。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|---|-------------------------|
| 施策番号 | B-2 | 担当課 【 生涯学習・文化・スポーツ振興課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 社会教育の推進 芸術・文化活動の推進 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 19) 文化のまちづくり事業 20) 地域文化振興事業 21) 郷土科学館管理運営事業 | |

| 目的・概要 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・心豊かな地域社会の形成を目指して、文化施設を活かした優れた芸術文化の鑑賞機会を提供し、地域文化の振興を図る。 ・個性豊かな市民文化の創造に向けて、自主的な文化活動が多彩に繰り広げられ、身近に芸術文化にふれあう機会を拡充する。 ・郷土資料の適切な管理と、一層の有効活用を図る。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民の要望に沿った様々な芸術鑑賞機会を提供し、参加者の満足度を高める。 ・市民の文化活動を支援し、市民が身近に文化に触れる機会を提供する。 ・郷土科学館にて企画展を開催 ・平成29年3月に編纂された「新しいわみざわの民話」を活用した新たな事業の実施 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 【文化のまちづくり事業】 ○クラシックコンサートや、アマチュアバンドフェスティバルなどを実施。 10事業・集客数8,523人※前年度より増加 | キタオンやまなみーるなどを会場に、市民に対し質の高い文化公演等を行うことができた。天候等により2事業が中止となった。 |
| 【地域文化振興事業】 ○市民の文化祭の開催 ・岩見沢地区：展示作品576点、舞台発表887人、来場者数6,084人 ・栗沢地区：展示作品705点、舞台発表84人、来場者数569人 ○子ども文化祭の開催 英語暗唱大会27人、音楽発表会1,592人、展示発表1,213点 | 例年通り実施することができた。 |
| 【郷土科学館管理運営事業】 ○企画展「郷土の詩人 加藤愛夫」 観覧者数1,023人 図書館との連携により「回想の加藤愛夫、その生涯」と題したトークショーを図書館にて開催 ○「新しいわみざわの民話」を活用した事業については3月に実施予定であった科学館まつりにおいてプラネタリウム室で星空を眺めながらの読み聞かせを予定していたが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業中止となった。 | 企画展では交響詩岩見沢の作詞を行った郷土の詩人加藤愛夫について、その生涯・功績等を伝えることができた。 いわみざわの民話を語り継ぐため来年度も実施を検討する。 |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民要望の高い芸術文化事業の内容充実に努めるとともに、積極的な広報活動を展開し、集客数の増を目指す。 ・市民の文化活動の発表機会や鑑賞機会を充実し、文化に対する意識の高揚を図る。 ・郷土科学館にて、充実した展示、企画展の開催により来館者数の増加を図る。 ・郷土科学館のリニューアルに向けた収蔵品の整理を行う。 | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|---|--------------------------------|
| 施策番号 | B-3 | 担当課 【 生涯学習・文化・スポーツ振興課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 社会教育の推進 スポーツ活動の推進 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 2 2) 健康・スポーツ振興事業 2 3) オリンピック・パラリンピック推進事業 | |

| 目的・概要 | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康づくりと生きがいを促進するため、様々なスポーツ事業を実施する。また、各種スポーツの普及・振興と競技力の向上を図るため、スポーツ団体の活動や全国大会出場及び全道大会等の開催及び将来を担うアスリートの活動に対する支援を行う。 ・2020年東京パラリンピックの開催に向け、パラリンピック競技の事前合宿誘致に取り組むとともに、パラリンピアン等との交流を通じて、障がい者スポーツに対する市民の理解と関心を高める。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室や大会の開催及び幅広い年齢層の参加者の獲得を図る。 ・奨励金・補助金を交付し、全国大会出場や全道大会等の開催を支援する。 ・将来を担うアスリートの活動支援を行う。 ・パラリンピック競技の合宿誘致活動に取り組むとともに、合宿受入れ時における選手と市民との交流を図る。 ・障がい者スポーツ体験イベントの開催の支援を行う。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ教室や各種大会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマラソン大会（2コース・115人参加） ・楽しいキッズスポーツ教室（9回実施・178名登録） ・市民歩け歩け大会（2回実施・67人参加） ・おとなの体力測定会（1回実施・17人参加） ・少年野球肘検診（1回実施・136名参加） | 歩くスキー教室及び集いは積雪不足により中止、キッズスポーツ教室と歩け歩け大会は感染拡大防止等により実施回数を減らしたが、それ以外の事業については予定通り実施した。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○報償金・補助金交付による支援 <ul style="list-style-type: none"> ・全道・全国大会の開催（全道7回、全国1回、補助金交付額450千円） ・全国大会出場（5団体・50個人、報奨金交付額1,420千円） ・将来を担うアスリートに対する支援（6個人・700千円） | 全国大会出場のほか、アスリート奨励金制度に基づき、それぞれ報奨金を交付した。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○各種スポーツ団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ団体への支援（3団体、補助金交付額2,826千円） ・教育大学岩見沢校と連携し、ドイツ発祥のボールゲーム教室の「バルシューレ」をキッズスポーツ教室で実施。（2回） | キッズスポーツにおけるバルシューレについては、教育大の全面協力のもと実施することができた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○パラリンピック合宿誘致活動 <ul style="list-style-type: none"> ・車いすラグビー日本代表及び車いすフェンシングサーブル日本代表の合宿を行った。 ○障がい者スポーツ体験イベントの開催支援 <ul style="list-style-type: none"> ・第5回アダスポ！岩見沢の開催に係る補助金の交付（補助金交付額500千円） | 車いすラグビー日本代表及び車いすフェンシングサーブル日本代表の合宿受入れを行い、一般公開やアリーナ清掃において選手との交流を図ることができた。 |

今後の課題・取組の方向性

- ・教育大学岩見沢校やスポーツ推進委員等との連携を強化し、スポーツ事業の内容充実に努め、参加者数の拡充とスポーツ意識の高揚を図る。
- ・オリンピック・パラリンピック競技の合宿誘致について各競技団体等と話し合いを進めるとともに、誘致をきっかけにスポーツの魅力を伝え、その普及促進を図る。

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | | |
|-----------------|----------------------|-----|-----------|
| 施策番号 | B-3 | 担当課 | 【 教育施設課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 社会教育の推進 スポーツ活動の推進 | | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 24) スポーツ施設管理運営事業 | | |

| 目的・概要 | |
|---|-------------------|
| 利用者が安全に安心して快適にスポーツを楽しむことができるよう、施設の環境整備を図る。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度を活用し管理運営を実施 ・体育協会からの要望や、緊急性を有するものから逐次計画的に施設修繕等を実施 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 指定管理者制度を活用し、施設の効率的・効果的な管理運営ができるよう指定管理者の選定を行った。 | 予定どおり選定を行うことができた。 |
| 各施設の修繕等については、利用者へのサービスに支障がないよう施設利用状況を把握し、計画的に行った。 | 予定どおり実施できた。 |
| | |
| | |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <p>指定管理者制度導入施設においては、今後も効率的・効果的な運営ができるよう適切に指定管理者の選定を行う。</p> <p>施設の環境整備においては、引き続き経年劣化による修繕・改修実施に向け、計画的に予算組みをしていくことが課題である。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|--------------------------------|--------------------|
| 施策番号 | B-4 | 担当課 【 図書館 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 社会教育の推進 図書館運営の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 25) 図書館活動運営事業 26) ブックスタート事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書、記録、資料などの収集・保存に努め、誰もが知識や情報を得ることができる環境を整えるとともに、司書の専門性を活かし、幅広い世代に対応した読書普及活動を推進する。 ・ 「いわみざわの子ども読書プラン」に基づき、子どもたちが本に触れる機会を広げるとともに、ブックスタート事業の充実に努める。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 全館図書情報の共有と地域図書サービス拠点活用等による利便性向上 ・ 広報誌やウェブ等による積極的な情報提供と誰もが知識・情報を得られる環境づくり ・ 司書の専門性の向上及び市民等との連携による幅広い世代に向けた読書普及活動 ・ 学校や学校図書館、ボランティアと連携した子どもの読書の推進 ・ ブックスタートパック配布率の100%達成とフォローアップ事業の充実 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| 各館の地域性に合わせて図書資料を収集するとともに、計画立てて蔵書管理を行った。 | 予定どおり実施できた。次年度も引き続き計画的な蔵書管理を行う。 |
| 利用者サービス向上のため、広報紙や図書館だより、ホームページに加え、FMはまなすやSNSなどで積極的な情報提供を図った。また、高齢者や図書館利用に支障がある人への音声図書サービスや読み聞かせ研修など幅広いサービスの実績を重ねた。 | 専門知識を持つボランティアや行政の関連部署等と連携し、引き続きサービスの充実を進める。 |
| 司書全員に計画的に研修を受講させ専門性を高めるとともに、市民と連携した郷土作家周知や新たな講座の開始など、幅広い年代の読書普及と学びの支援を行った。 | 次年度も引き続き実施したい。 |
| ボランティアとともに取り組む子ども向けイベントの実施や読書ノート等の配布、ブックトーク、学校図書館を通じた市立図書館の本の貸出など、引き続き子どもたちが本に触れる機会を広げた。また、研修などによりボランティアの支援を行った。 | 次年度も引き続き実施する。特に、読書ノート事業の充実に取り組む。 |
| 対象の親子全員にブックスタートの絵本を贈った。また、健康づくり推進課・子ども課との協働で実施するベビカフェや、親子を対象とした絵本の読み聞かせの定期開催などのフォローアップ事業を行った。 | 予定どおり実施できた。次年度も引き続き実施したい。 |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な蔵書管理と円滑な図書整備 ・ 地域図書サービス拠点との連携 ・ 司書研修の継続 ・ 高齢者や図書館利用に障がいのある人等を対象としたサービスの拡大と環境整備 ・ 学校と連携した子ども読書支援の継続、拡大 ・ ブックスタート事業の継続 | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|-----------------------------------|--------------|
| 施策番号 | C-1 | 担当課 【 子ども課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 子ども・子育て支援の推進 子ども・子育て支援の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 27) 子ども・子育て支援事業 28) あそびの広場運営事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|--|
| <p>子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指して、「岩見沢市子ども・子育てプラン（平成27年度～31年度）」に基づき、困った時に必要な支援を受けられる「安全」、将来を見通せる子育て支援サービスを受けられる「安心」、成長を喜び、子育てが楽しくなる「笑顔」の3つの視点から各事業を実施する。また、令和2年度から5年間を計画期間とする第2期子ども・子育てプランの策定を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て会議における「岩見沢市子ども・子育てプラン」の進行管理等 ・ショートステイ、トワイライトステイの実施 ・産前産後ヘルパー事業の実施 ・ファミリー・サポート・センター事業の実施 ・一年を通じて天候を気にせず楽しめる全天候型の「あそびの広場」の運営 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て会議を開催し、「岩見沢市子ども・子育てプラン」の進行管理を行うとともに、市民向けニーズ調査等を実施し、第2期の同プラン（令和2～6年度）の策定作業を行う。 ・子ども・子育てに関する協議課題である、「子どもの貧困対策」や「児童虐待防止」に係る専門部会を開催し、同プランに盛り込む方向性や具体的施策をまとめる。 ・産前産後ヘルパー事業のほか、ショートステイやトワイライトステイ、ファミリー・サポート・センター事業など各種の子育て支援事業を実施し、保護者負担の軽減や子育てと就労を両立できる環境づくりを行う。 ・あそびの広場を運営し、市内外から年間を通じて52,700人を集客する（指定管理者：振興いわみざわ）。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>ニーズ量や確保方策をとりまとめ、計6回の子ども・子育て会議において、第2期プランの方向性等について協議し、答申を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月 策定のためのニーズ調査(就学前、小学生のいる世帯) ・7月 広報によるアンケート調査(市民、事業者) ・11月 子ども・子育てセミナーの開催 ・12月 第2期プラン(素案)に対する意見募集 | <p>ニーズ調査等を踏まえ、保護者の就労環境等の変化や今、求められている施策等について、検証・評価と併せて適切に把握し、計画に反映することができた。</p> |
| <p>子どもの安全と安心に関する専門部会を計2回開催。ニーズ調査結果をもとに、貧困対策の視点から、子どもの体験活動補助金交付事業を、虐待防止の視点から専門職によるネットワークづくりなどの新規事業を検討した。</p> | <p>両視点からの委員意見をもとに、必要な施策を構築し、次年度予算に反映することができた。</p> |
| <p>各種の子育て支援事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ実績：延利用者6人、7日間の利用 ・トワイライトステイ実績：利用者なし ・産前産後ヘルパー実績：登録86人、利用回数583回、利用時間数1,163時間 ・ファミリー・サポート・センター事業実績：援助活動件数427回、提供会員39人(+5)、依頼会員77人(+62)、両方会員(0) | <p>産前産後ヘルパー及びファミリー・サポート・センター事業は利用が増加し、必要な家庭に支援を提供することができた。今後も事業のPR等を継続する。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>あそびの広場は年間に308日間の開館し、55,303人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月末から3月末までの間、休館としたことにより、利用者は目標値を超えたが昨年度より大きく減少した。</p> | <p>市外における認知度が上がり、市外利用者数については、昨年度を上回る推移であった。今後は市外だけでなく、自主事業等の展開により、市内利用者の増を図る必要がある。</p> |
| <p>○利用実績</p> <p>R01 55,303人（市内20,291人 市外33,819人 団体利用除く）</p> <p>H30 66,492人（市内26,355人 市外38,911人 団体利用除く）</p> <p>H29 56,528人（市内23,200人 市外32,010人 団体利用除く）</p> <p>H28 56,360人（市内29,647人 市外25,461人 団体利用除く）</p> | |
| <p>今後の課題・取組の方向性</p> | |
| <p>「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン（令和2年度～6年度）」に基づき、「安全」「安心」「笑顔」の3つの視点から事業を推進し、引き続き子どもたちが健やかに成長し、安心して子育てができる環境づくりに努める。また、子どもたちがどのような家庭環境、経済状況にあっても、誰一人置き去りにされることなく、将来に希望をもって成長できるよう、地域や保護者のニーズに応え、各種の子育て支援事業に取り組んでいく。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|---|--------------|
| 施策番号 | C-1 | 担当課 【 子ども課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 子ども・子育て支援の推進 子ども・子育て支援の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 29) 栗沢認定こども園運営事業 30) 保育所入所・幼稚園入所運営事業 31) 病児・病後児保育運営事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|---|
| <p>子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指した「岩見沢市子ども・子育てプラン（平成27年度～31年度）」に基づき、困った時に必要な支援を受けられる「安全」、将来を見通せる子育て支援サービスが受けられる「安心」、成長を喜び、子育てが楽しくなる「笑顔」の3つの視点から各事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗沢認定こども園の運営管理 ・認可保育所の入所と特別保育等の実施及び幼稚園入所運営の実施 ・病児・病後児保育の実施 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保育所と幼稚園を一体的に運営する栗沢認定こども園の運営管理を通して、栗沢地域の子育て支援や地域交流の活性化を図る。 ・認可保育所利用に係る事務、法人立保育園に対する運営費の支弁や特別保育など安定した保育環境を維持する。また、子ども・子育て支援新制度に移行した私立幼稚園に対する運営費を負担する。 ・子どもの病気の回復期まで、保護者が仕事等により家庭で保育ができない場合に専用施設で一時的に保育を行う病児・病後児保育を実施し、仕事と育児の両立を支援する。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>保育所と幼稚園を一体的に運営する栗沢認定こども園の運営管理を指定管理者に委託し、保育と幼児教育を一体的に行った。</p> | <p>地域住民等の理解と協力により、栗沢地区の教育・保育環境支援の継続が図られた。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所の利用を希望する児童の入所事務を行った。 ・保育料基準額表を減額・細分化し、保育所では小学校3年生の子から数えて第3子目以降及び同時入所の第2子に係る保育料を無料とした。また、幼稚園では小学校3年生から数えて第2子、小学校6年生から数えて第3子に係る保育料を無料とした。 ・認可保育所18園、定員1,122人、令和2年3月初日の入所人員1,214人。認定こども園の幼稚園枠は18人。 ・特別保育等：延長保育13園、一時預かり2園、休日保育1園、障がい児保育5園 ・新制度に移行した私立幼稚園5園の定員795人、令和2年3月初日の入所人員835人。なお、10月から子ども・子育て支援法の改正により3歳から5歳までの保育所、幼稚園の保育料は無償となった。 | <p>今年度についても待機児童は生じなかった。小規模保育施設を開設したことにより0、1、2歳児の受け入れを増やすことができた。</p> |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育：岩見沢市立病児保育施設（9条西7丁目1-3） ・病後児保育：岩見沢ひがし認定こども園病後児ルーム （東町1条8丁目932-67） <p>登録児童数：202人 延べ利用児童数（病児113人、病後児20人） 利用料金 半日（5時間未満）1,000円 1日（5時間以上）2,000円</p> <p>※給食費等別途 ※生活保護及び市民税非課税世帯無料</p> | <p>病児・病後児保育の実施により、保護者の子育てと就労の両立を支援することができた。</p> |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・栗沢認定こども園については、指定管理者との連絡調整を引き続き行い地域の保育等の支援を行う。 ・子ども・子育て支援法の改正により3歳以上の保育料が無償化した制度の周知を引き続き行うとともに、質の高い保育環境・幼児教育環境を維持するための人材確保についての取り組みが必要となる。 ・病後児保育施設については、仕事との両立を支援するためにも利用方法等を検討する必要がある。 | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|----------------------------|--------------|
| 施策番号 | C-2 | 担当課 【 子ども課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 子ども・子育て支援の推進 子育て相談体制の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 32) 子育て総合支援センター事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|--|
| <p>子育てに喜びや楽しみを感じ、安心して子どもを育てることができるよう、こども・子育てひろば「えみふる」を中心に、いつでも気軽に子育てや発達に関する相談や支援を受けられる環境づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターを中心とした相談等の実施 ・常設型子育て親子ひろば「ひなたっ子」の運営と地域親子ひろばの支援 ・子ども発達支援センターを運営し、子育て支援の観点から早期療育につなげる相談支援 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子育て総合支援センターを中心に子育てや発達に関する相談や情報提供、各種講座を実施することにより、子育てに対する負担感・不安感を軽減する。 ・「ひなたっ子」において、子育て中の親子の交流の場を提供し、楽しい育児を支援する。 ・子ども発達支援センターの療育相談により保護者負担の軽減と早期療育を行うほか、1歳6か月児健診を受診するすべての子どもへ「えみふる ふぁいる」を配布する。 ・「えみふる」の各構成部門が連携し、生まれてから高校を卒業するまでの間、切れ目のない相談や支援を受けることができる環境づくりを行う。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>子育て支援センターによる相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談 1,052件 ・家庭・児童相談 553件 ・おしゃべりルーム 41回、830組、1,704名 ・小児科医による子育て相談 8回、165組、316名 <p>えみふる構成部門連携 相談・支援連携件数 437件 あそびの広場「子育て相談」 相談件数 47日119件</p> | <p>子育て支援センターが主催する各事業の参加人数や相談件数については、出生児数の減少と相まって減少している。</p> |
| <p>「ひなたっ子」において、民生委員児童委員をはじめとするボランティアの協力のもと、子育て中の親子の交流の場の提供と交流の促進を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績 ひなたっ子：開設171日、利用者数11,025人 地域親子ひろばの支援：12回 | <p>新型コロナウイルスによる未実施や児童数の減により、昨年から大きく減少した。ひなたっ子を起点に、地域に利用が拡大するよう引き続きPR等を行う。</p> |
| <p>子ども発達支援センターによる相談・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録人数 就学児13名、未就学児547名 計560名 ・相談・支援件数 就学児38件、未就学児701件、計739件 ・療育支援教室こどもサポート「うずら」の開催 実施回数11回、支援児童数105名 ・えみふるふぁいるの配布部数 267部 | <p>子育ての視点から発達支援に関わる環境が整ったことで、他部門からの紹介などスムーズに対応できた。今後は、えみふるふぁいるの普及と効果的な運用方法を検討していく。</p> |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <p>子育て総合支援センターを中心に子育てに関する相談・助言等や親子の交流事業を実施するほか、子ども発達支援センター事業を実施し、「えみふる ふぁいる」の活用により関係機関との連携を図り、早期発見・早期療育を含めた総合的な子育て支援を行う。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|--------------------------|---------------------|
| 施策番号 | C-3 | 担当課 【 子ども課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 子ども・子育て支援の推進 放課後活動の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 3 3) 留守家庭児童対策事業 | |

| 目 的 ・ 概 要 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校の児童に対し、安全で健やかに過ごすことができるように、児童館のほか、小学校クラブ等の計21か所で放課後児童クラブを運営する。 ・ 民間の放課後児童クラブ1か所の運営を支援する。 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後児童クラブが、子どもたちにとって安全・安心で楽しい居場所となり、適正な規模で活動できるよう、必要な職員数の配置や施設・設備等の環境整備を行う。 ・ 特色ある取組を行う民間児童クラブに対し、国の補助基準に基づく補助金を交付し、経営の安定化を図る。 ・ 職員の質の向上を図るため、北海道が主催する研修に派遣するほか、市独自の研修機会を設ける。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>登録要件を満たす1～6年生の児童に対し、学年に分けて、児童館12か所、小学校6校、公共施設2か所、地域施設1か所で児童の受入れを行った。また、保護者の就労等により延長保育を必要とする児童に対し、開設時間を1時間延長し、18時から19時まで受け入れを行った。</p> <p>また、全市的な親睦・交流の機会として、「児童館スポーツレク交流会」「高学年レクリエーション交流会」「冬季レクリエーション」を実施した。</p> | <p>日曜祝日を除く、年280日開設し、1日平均約473人の受け入れを行い、児童に遊びと生活の場を提供することができた。また、延長保育は1日平均に換算すると120人が登録し、26人が利用し、ニーズに対応することができた。</p> |
| <p>特色ある取組を行う民間の放課後児童クラブ（1団体）に対し補助金を交付した。 （箇所数：1か所、補助金の額：合計6,534千円）</p> | <p>補助金を交付することで、民間クラブの経営の安定化を図ることができた。</p> |
| <p>児童館・放課後児童クラブの職員向けの研修会を実施した。 （テーマ・内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工作及びレクリエーションのプログラムについて（クラブ間実践交流） ・ 保護者対応等のあり方について（指導室地域コーディネーター） ・ アレルギーと応急手当について（市立病院小児科医） ・ 児童虐待の防止及び対応について（児童相談所長） | <p>実技講習や講義、ワークショップなど様々な形式により、現場の課題に向き合い、実務に活かせる機会を提供することができた。</p> |
| 今後の課題・取組の方向性 | |
| <p>引き続き、子どもたちが安全安心に活動できるよう環境整備を行うとともに、健やかな成長を支えるため、職員研修等を通じ職員の資質を高めるとともに、交流行事や体験プログラムの推進など活動の充実を図る。また、保護者の子育てと就労の両立を支援するため、規定の開所時間以前の利用が必要な家庭に対し、シルバー人材センターの協力を得て、早朝の見守り活動を実施する。</p> | |

令和元年度 岩見沢市教育行政点検評価表

| | | |
|------------------------|----------------------------|---------------------|
| 施策番号 | C-4 | 担当課 【 子ども課 】 |
| 教育行政方針の分野・重点施策名 | 子ども・子育て支援の推進 青少年健全育成の充実 | |
| 重点施策に関連する事務事業名 | 34) 青少年対策事業 35) 青少年育成事業 | |

| 目的・概要 | |
|---|---|
| <p>青少年非行の早期発見、早期指導に努めるとともに、非行を招く環境の改善に取り組む。また、小中高等学校における生徒指導上の諸問題を共有し、生徒指導の充実を図る。そのほか、青少年が様々な人との交流を通じて、正しい判断力を持ち、社会参加することができるよう成長を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年センターを中心とした、補導員（学校・地域）や環境浄化モニターによる街頭補導活動や環境浄化活動の実施 ・小中高等学校との連携による生徒指導に関する情報共有や対策等の協議 ・地域子ども会育成会連合会事業や少年の主張等健全育成事業の実施 ・青少年問題協議会によるメディアリテラシー教育の推進 | |
| 令和元年度の達成目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成及び非行防止を推進するため、青少年センターが中心となり、青少年問題協議会や小中高生徒指導連絡協議会と連携し、児童生徒を取り巻く諸問題について協議し、健全育成事業や生徒指導の充実を図る。 ・少年の主張や子ども会事業など各種の青少年育成事業を通じ、青少年の自立と社会参加を促すとともに、小学校と連携しメディアリテラシーに関するワークショップを開催する。 | |
| 令和元年度の実施状況 | 評価・反省点 |
| <p>通常及び特別補導、街頭補導活動、地区補導員連絡協議会及び町会育成協議会での情報交流。</p> <p>立入調査員や環境浄化モニターによる調査（携帯電話販売事業者、有害図書類、カラオケボックス等の調査活動等）の実施や広報紙の学校等への配布。</p> <p>生徒指導研究員会、小中高生徒指導連絡協議会、地区補導員、高等学校生活指導担当等との連携。</p> | <p>学校をはじめ、地域や各関係機関と連携し、組織的な活動を推進することで、青少年の非行防止に努めることができた。</p> |
| <p>地域子ども会育成会連合会による、市内の児童を対象にした交流事業の実施（キャンプ、野球大会、炭鉄港ツアー、書初大会、かるた大会）。</p> <p>少年の主張、子ども発明工夫展など、少年が自ら考え行動するきっかけとなる事業の実施。</p> <p>リーダー養成のための研修会への派遣（小学生：子ども会リーダー研修会、中学生：青少年の体験活動推進事業）。</p> <p>善行少年・青少年健全育成功労者表彰を実施し、善行少年に2団体、青少年健全育成功労者に4個人を表彰した。</p> | |
| <p>モデル校である中央小5年生を対象にメディアリテラシー教育を実施。情報を受け取ったときと発信するときの2つの場面を想定し、ワークショップを実施した。</p> | |
| <p>市内小学校向けの教材を作成することができた。今後、普及と活用を促していく。</p> | |

今後の課題・取組の方向性

「第2期岩見沢市子ども・子育てプラン（令和2年度～6年度）」に基づき、子どもの貧困対策の観点から、子どもの居場所づくりの充実に努め、未来を担う青少年が社会的に自立した生活を送ることができるよう、様々な体験活動等を提供していく。また、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域が協力し、非行防止に取り組んでいく。

第4章 学識経験を有する方からの改善に向けたご意見

《学校教育の推進》

豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

教育情報システム化推進事業について

I C Tを活用した授業や学習は、子どもたちの習熟に寄与する良い面があるが、対面での授業の良さもあり、使いどころを見極めたうえで整備を進めてもらいたい。

育ちと学びを支える教育環境の充実

小・中学校管理事業について

働き方改革の観点からは、部活動における教職員の負担について抜本的な改革が必要と考えられることから、外部人材の活用について一步踏み込んだ対応の検討をお願いしたい。

教育支援センター事業について

昨今のコロナ禍において、オンライン授業の方が自分の意見を発表する等の学習がしやすいという子どももいることから、登校が難しい子どもや対面型の授業が難しい子どもに授業を提供するためのサポートをお願いしたい。

教育研究所運営事業について

教育の情報化の進展に伴う教員のI C T利活用による指導力向上について、各校における研修など教員の継続的なI C Tスキル向上の環境を整え、子どもたちの学習環境の向上につなげてもらいたい。

小・中学校校舎等管理事業について

トイレの洋式化やエレベーターの設置など、子どもたちの多様性・共生という観点から、ユニバーサルデザインに対応した学校の整備を進めてもらいたい。

緑陵高等学校の教育の充実

学校管理事業について

情報コミュニケーション科の資格取得の多さやスポーツ総合コースは緑陵高校の特色となっており、中学生の進路選択に対する訴求力となるので、特色をより明確にし、中学生やその保護者にP Rしてもらいたい。

学校給食の充実

学校給食共同調理所運営事業について

食の教育について、食の大切さや給食に対する思いなど、実際に給食を作っている栄養士による各校での食育を引き続き推進してもらいたい。

《社会教育の推進》

生涯学習の充実

市民の学び支援事業について

いわみざわ市民大学や高齢者講座などの講座後に参加者が集まれる場があると、主体的に学ぶ意欲のある参加者同士でのより深く広い学びにつながるため、そのような仕掛けづくりを検討してもらいたい。

スポーツ活動の推進

健康・スポーツ振興事業について

子どもから高齢者までを対象とした生涯スポーツという観点から、事業への参加が少ない就労者層に対するアプローチ方法を検討し、就労者層などの健康体力づくりやスポーツを行う機会を創出することができる事業を実施してもらいたい。

図書館運営の充実

図書館活動運営事業について

学校と連携した子ども読書支援について、学校や児童館に図書館の図書が巡回される取り組みは、子どもたちが図書を手に取る機会が増えるとても良い取り組みと感じている。引き続き、多くの市民に図書を見てもらえる取り組みを進めてもらいたい。

《子ども・子育て支援の推進》

子ども・子育て支援の充実

子ども・子育て支援事業について

産前産後ヘルパー事業について、登録者や利用回数、利用時間などが増加しており、ニーズの高まりを感じる。引き続き利用者のニーズを把握しながら事業を継続してもらいたい。

あそびの広場運営事業について

あそびの広場について、イベントの開催や遊具の更新などで市内利用者をより一層集客し、あそびの広場を軸に子育て総合支援センターの各種子育て支援機関を市民に気軽に利用してもらう流れを引き続き作ってもらいたい。

保育所入所運営事業について

保育士の人材確保に向けて、新規学卒者の確保が重要であることから、岩見沢市の保育所が新規学卒者に選ばれる取り組みについて検討してもらいたい。

青少年健全育成の充実

青少年育成事業について

地域子ども会育成会連合会による交流事業や少年の主張、リーダー養成のための研修会への派遣など、子どもたちに体験活動の場を提供することは、子どもたちの成長に大いに役立つものである。今後も子どもたちに体験活動や文化活動の機会を設けてもらいたい。

I はじめに

教育は、人を育てることを通して、未来を創造する営みです。一人ひとりの可能性を最大限に広げ、伸ばし、より豊かな人生を過ごせるように働きかけていくことが教育の役割です。

また、子どもたちが将来に向けて夢や希望を描き続け、自らを高め、困難にもあきらめることなく立ち向かい、自分らしさを発揮して自己実現を図るとともに、他者と協働しながら社会に貢献する資質や能力を身につけることが教育には求められています。

そのことを念頭に置いて、岩見沢市教育大綱に基づき、市民の信頼に応える温かい、心のこもった教育行政を推進してまいります。

学校教育につきましては、「子どもが主人公になる岩見沢の教育づくり」に向けて、日常の授業を改善することによって、「授業づくりのまち岩見沢」の具現化を図り、子どもと保護者の期待や信頼に応えてまいります。

社会教育につきましては、「生涯にわたって主体的に学ぶ環境づくり」に向けて、生涯学習の場を大切にし、芸術、文化、スポーツの振興や推進および図書館運営の充実に努めてまいります。

子ども・子育て支援につきましては、「誰もが笑顔で子育てできるまちづくり」に向けて、「えみふる」の活用推進のほか、子どもの成長を記録するファイルを導入するとともに、各部署や機関が連携して、相談や支援が気軽に受けられる体制づくりを推進してまいります。

これより、本年度の施策の概要について述べてまいります。

II 学校教育の推進

はじめに、「学校教育の推進」についてです。学校教育においては「子どもが主人公になる岩見沢の教育づくり」を推進してまいります。

1 新しい時代に対応できる力の育成

1点目は、「新しい時代に対応できる力の育成」についてです。

子どもが自ら未来を切り開いていくうえで必要な資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を通して、確かな学力の定着を

図ってまいります。

そのため、小中学校において「教えて考えさせる」授業スタイルによる統一感のある授業改善を推進するとともに、学力向上の基盤となる「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく学級集団づくりや学習スキルの向上による子どもたちの学びに向かう力の育成に努めてまいります。

また、カリキュラム・マネジメントを通じた教育課程の工夫・改善や小中連携による一貫した教育活動の展開など、学校の組織的な学力向上の取組みを推進してまいります。

さらにICTを活用した効果的な指導と情報活用能力を高める教育活動を推進するとともに、外国語指導助手を有効に活用するなど、「英語が話せる岩見沢の子ども」の育成に向けて、外国語教育の充実を図ってまいります。

大学の教員による出前授業や協力授業など、北海道教育大学岩見沢校との連携を図った教育活動を推進するとともに、学校が企画・立案する学力向上に向けた取組みを積極的に支援してまいります。

2 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進

2点目は、「豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進」についてです。

子どもたちに豊かな人間性を育成するため、ピア・サポートの取組みにより自尊感情や自己有用感を育むとともに、自己の成長を実感し、誰もが達成感を持てる授業づくりや子どもに寄り添う積極的な生徒指導の推進に努めてまいります。

子どもたちがふるさとに愛着を持ち、岩見沢で生まれ育ったことに誇りを持てるよう「ふるさと教育」を推進してまいります。また、道德教育の充実を図り、命を大切に作る心や美しいものに感動する心、礼節や規範意識などを育てる「心の教育」を推進してまいります。

さらに、体験活動や読書活動の充実を図り、豊かな感性や想像力を育ててまいります。

子どもたちに健やかな体を育成するため、すべての学年で新体力テストを実施し、体育の授業改善と、体力づくりの取組みを通して、体力向上

や運動の習慣化を推進してまいります。

また、「早寝・早起き・朝ごはん運動」や「家庭での5つの約束」を基本とした活動を展開し、望ましい学習・生活・運動習慣、食習慣などを身に付けさせる取組みを推進してまいります。

さらに、薬物乱用防止教育や防災教育の充実を図り、自らの判断で自分の命を守ることでできる力を養ってまいります。

3 育ちと学びを支える教育環境の充実

3点目は、「育ちと学びを支える教育環境の充実」についてです。

「岩見沢市いじめ防止基本方針」に基づく「岩見沢市いじめ問題対策連絡協議会」等の組織や「教育支援センター」及び「登校支援室」が連携し、いじめや不登校の問題をはじめ、悩み・不安を持つ子どもや保護者、学校を支援してまいります。

特別支援教育支援員や学校看護師の配置などにより、子ども一人ひとりの発達を保障する特別支援教育の充実に努めるとともに、将来の生き方や望ましい職業観・勤労観を育むキャリア教育を一層推進してまいります。

また、学習塾との連携による土曜学習会、英検学習会、囲碁の授業、長期休業中の「学び合い広場」など、多様な学ぶ場と機会を提供してまいります。

教育研究所では、学力・体力の向上、教師力・学校力の向上、地域や大学との連携など、教育効果を高めることに重点を置いて「調査・研究」「養成・研修」機能を強化してまいります。

教員の実践的指導力を高め「教えるプロ」としての専門的力量を発揮できるように、資質・能力の向上を図る各種研修を実施するとともに、学校における業務の見直し・改善を推進してまいります。

また、児童生徒数の減少が見込まれる将来において、地域性に応じた特色ある学校づくりや適正な規模による学校教育が行われるよう検討してまいります。

学校施設の老朽化対策や児童見守りシステムの積極的な活用などに取り組み、教育環境の充実を図ってまいります。

4 信頼と期待に応える開かれた学校づくり

4点目は、「信頼と期待に応える開かれた学校づくり」についてです。

子どもたちに、未来を生き抜くために必要な資質・能力を育むため、学校において「社会に開かれた教育課程」の実現に努め、教育活動や学校運営の改善・充実を図ってまいります。

また、コミュニティ・スクールの拡大や地域ボランティアの活用などにより、学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動の推進に努めてまいります。

さらに、各校種間での連携・交流を促進し、学びの連続性を大切にした教育活動を展開してまいります。

5 緑陵高等学校の教育の充実

5点目は、「緑陵高等学校の教育の充実」についてです。

市立高校として、地域のよさを学び地域社会の発展に貢献できる人材育成を目指し、家庭や地域社会と連携を図りながら、ICT環境や英語教育の充実など創意工夫に富んだ質の高い教育を提供し、生徒の社会参画意識を醸成してまいります。

また、普通科「普通コース」と「スポーツ総合コース」、情報コミュニケーション科それぞれの特色を活かして、選択幅の広い教育課程を編成・実施し、生徒の多様な進路に対応するとともに、将来の自己実現に向けた資質・能力を育成する、活力と特色ある学校づくりを推進してまいります。

6 学校給食の充実

6点目は、「学校給食の充実」についてです。

学校給食共同調理所においてHACCPに基づいた食品の衛生管理を徹底するとともに、新鮮で安全な地元産の食材を積極的に活用し、安全・安心で子どもたちが健やかに成長できる学校給食に取り組んでまいります。

また、共同調理所の施設機能の活用を図り、見学等を通じて子どもたちが食に関する正しい知識を習得し、望ましい食習慣を身につけることが

できるよう、食育の充実に取り組んでまいります。

食物アレルギーにつきましては、子どもの命と健康を守ることを最優先に、牛乳や主食での対応に加え、副食のアレルギー対応につきましても、家庭や学校と連携して取り組み、安全で喜ばれる給食の提供に努めてまいります。

また、市民が学校給食を身近なものとして感じ、理解を深めていただけるよう、定期的な試食会や施設見学などに引き続き取り組んでまいります。

III 社会教育の推進

次に、「社会教育の推進」についてです。社会教育においては「生涯にわたって主体的に学ぶ環境づくり」を推進してまいります。

1 生涯学習の充実

1点目は、「生涯学習の充実」についてです。

子どもから高齢者までの全世代が生涯にわたって学ぶことの楽しさを感じ、生きがいのある豊かな生活を送るため、興味・関心に応じた自由な学習活動ができるよう、生涯学習センターを拠点に「いわなびチャレンジスクール」、「いわみざわ市民大学」、「高齢者対象講座」の開催など、多様な学習機会の充実に努めてまいります。

また、市民の自主的な学習活動に対して、人材バンク登録者を紹介するなど、積極的に支援してまいります。

2 芸術・文化活動の推進

2点目は、「芸術・文化活動の推進」についてです。

芸術文化は、豊かな創造性や感受性を育み、人々の生活に潤いと活力をもたらします。

芸術文化の鑑賞機会や活動機会の充実に図るため、岩見沢文化連盟や北海道教育大学などと連携し、「市民の文化祭」をはじめ、まなみーるや絵画ホールなどでの各種事業の実施に取り組むとともに、文化団体の活

動や全国大会出場者に対する支援などに取り組んでまいります。

また、郷土の歴史文化に触れる企画展や講座の開催などにより、その理解と関心を深めるとともに、岩見沢郷土科学館につきましては、資料の展示方法等の見直しに取り組むなど、文化遺産の保存・継承と活用に努めてまいります。

3 スポーツ活動の推進

3点目は、「スポーツ活動の推進」についてです。

生涯を通じて誰もがスポーツに親しみ、充実した活動ができるよう、岩見沢市体育協会やスポーツ推進委員などと連携し、「楽しいキッズスポーツ教室」や「ウォーキングマラソン大会」の開催など、体を動かす機会の充実に努めてまいります。

また、各種スポーツ団体の活動や全国大会出場者、アスリートとして将来を期待される子どもたちを支援するとともに、スポーツ施設の安全で快適な環境づくりに取り組んでまいります。

さらに、北海道教育大学との連携のもと、引き続き、東京パラリンピック競技の合宿誘致の取組みを進めるとともに、誰もが適性に応じて楽しめる「アダプテッド・スポーツ」の体験機会を通して、障がい者スポーツの普及・促進を図ってまいります。

4 図書館運営の充実

4点目は、「図書館運営の充実」についてです。

図書館は、地域の知の拠点として図書、記録、資料などの計画的な収集・整備に努め、司書の専門性を活かして、誰もが知識や情報を得ることができる環境を整えてまいります。

また「いわみざわの子ども読書プラン」に基づき、「どくしょノート」の活用や学校図書館との連携など、子どもたちが本に触れる機会を広げるとともに、市民団体などと連携して、幅広い世代の読書活動や学びを支援してまいります。

IV 子ども・子育て支援の推進

次に、「子ども・子育て支援の推進」についてです。すべての子どもと保護者が、将来に希望が持てるよう「誰もが笑顔で子育てできるまちづくり」を推進してまいります。

1 子ども・子育て支援の充実

1点目は、「子ども・子育て支援の充実」についてです。

子どもたちが健やかに成長し、楽しく子育てができるまちを目指して、「岩見沢市子ども・子育てプラン」に基づき、取組みを進めるとともに、市民の皆さんの意見をお聞きしながら、次の5年間に向けたプランの策定を行います。

こども・子育てひろば「えみふる」では、あそびの広場を含めた各部門が連携して支援に努めるとともに、ファミリー・サポート・センターを通して子育ての相互援助活動を実施いたします。

保育と幼児教育については、一時預かりや病児・病後児保育事業など多様な保育を実施するとともに、引き続き、第2子、第3子保育料を無料とするなど、「このまちで、子どもを産み、育てたい」という思いに応える環境づくりに取り組んでまいります。

2 子育て相談体制の充実

2点目は、「子育て相談体制の充実」についてです。

子育て支援センターに療育相談機能を加えた、子育て総合支援センターが中心となり、いつでも気軽に相談や支援が受けられるよう、「えみふる」の各部門及び児童相談所等関係機関が連携・協力して、子育て相談体制の充実を図ってまいります。

また、子どもの成長記録を保存し、必要に応じて支援に役立てることができるよう、1歳6か月健診を受診するすべての子どもに成長記録ファイルを配布し、子どもの成長を支えてまいります。

3 放課後活動の充実

3点目は、「放課後活動の充実」についてです。

子どもたちに遊びと生活の場を提供する児童館を運営するほか、留守家庭の小学生が利用する放課後児童クラブでは、異年齢交流や地域の特色を取り入れた体験活動に取り組み、メープル小学校においては、地域スポーツクラブと連携し、新たに放課後教室を開設するなど子どもの成長を支え、子育てを支援してまいります。

4 青少年健全育成の充実

4点目は、「青少年健全育成の充実」についてです。

岩見沢市地域子ども会育成会連合会などの関係団体と連携し、さまざまな体験活動に取り組むとともに、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域の協力を得ながら、街頭補導や有害環境の改善に努めてまいります。

また、「携帯・スマホのきまり」を作成し、子どもたちが自ら考え、正しく行動できるよう、学校や家庭と協力して、情報モラル教育やメディアリテラシーの向上に取り組んでまいります。

V おわりに

教育は人を幸せにする営みです。

「岩見沢で子育てがしたい」「岩見沢で学びたい」「岩見沢に住みたい」と誰もが思え、コミュニティの形成にも貢献する教育施策の推進に努めてまいります。

議員の皆さま、市民の皆さまのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。